

学内広報

2024.3.25

no.1580



東大150周年
応援自販機が登場!
→p.11



長年にわたりありがとうございました

令和5年度 **退職教員アルバム**

Instagram あらためて **始めました**

令和5年度 退職教員 アルバム

お疲れ様でした & ありがとうございます

本部広報課では、例年、年度末に退職する教員情報について UTokyo Portal で提供を呼びかけ、所属部局から提出があった紹介情報をウェブ上に掲載しています。集まった情報から皆さんのお名前と写真を抽出して『学内広報』誌面にも掲載し、先生方の大学へのご貢献を労います。長年にわたる東大での研究・教育活動、大変お疲れ様でした。

＝凡例＝



- 1 本部広報課
- 2 いちようくん
- 3 所属部局
- 4 氏名
- 5 職名
- 6 顔写真
- 7 専門分野
- 8 在職期間
- 9 学内広報
- 10 平成18年1月～

一行に収まらない場合は一部を省略して掲載
中断がある場合は※を付記

先生方の詳しい情報は こちらから



法学政治学研究科
大澤 裕教授



刑事訴訟法
平成19年4月～

法学政治学研究科
高原明生教授



東アジアの政治
平成17年4月～

法学政治学研究科
平野温郎教授



国際ビジネス法
平成25年4月～

法学政治学研究科
松下淳一教授



民事訴訟法
平成16年4月～

法学政治学研究科
森田 修教授



民法
平成6年4月～

医学系研究科
秋下雅弘教授



老年医学
平成16年12月～

医学系研究科
栗原裕基教授



代謝生理化学
平成14年5月～

医学系研究科
瀬戸泰之教授



胃・食道悪性腫瘍の外科治療
平成20年5月～

工学系研究科
浅間 一教授



サービスロボティクス
平成14年11月～

工学系研究科
幾原雄一教授



結晶界面工学
平成8年7月～

工学系研究科
岩佐義宏教授



固体物理学
平成22年1月～

工学系研究科
黒田忠広教授



集積回路
令和元年8月～

工学系研究科
塩原 等教授



耐震設計
平成7年7月～

工学系研究科
関村直人教授



原子力工学
昭和62年1月～

工学系研究科
土橋 律教授



安全工学
平成2年12月～

工学系研究科
中村吉伸講師



固体化学
昭和62年6月～

工学系研究科
古田一雄教授



認知システム工学
昭和62年1月～

工学系研究科
横張 真教授



緑地環境計画
平成18年7月～

工学系研究科
吉村 忍教授



計算力学
昭和62年4月～

人文社会系研究科
安藤 宏教授



日本近代文学
平成9年4月～

人文社会系研究科
池澤 優教授



宗教学
平成7年4月～

人文社会系研究科
井島正博教授



日本語日本文学
平成10年4月～

人文社会系研究科
亀田達也教授



社会的意識決定
平成26年10月～

人文社会系研究科
白波瀬佐和子教授



社会階層論
平成18年4月～

人文社会系研究科
頼住光子教授



倫理学
平成25年4月～

理学系研究科
飯野雄一教授



分子行動遺伝学
平成2年10月～

理学系研究科
程 久美子准教授



生物情報科学
平成14年3月～

理学系研究科
塩谷光彦教授



生物無機化学
平成11年4月～

理学系研究科
須藤 靖教授



宇宙物理学
平成5年7月～

理学系研究科
土居 守教授



光赤外線天文学
平成4年1月～

理学系研究科
樋口秀男教授



生物物理学
平成20年4月～

理学系研究科
星野真弘教授



宇宙惑星プラズマ物理学
平成11年1月～

農学生命科学研究科
浅見忠男教授



植物ホルモン機能制御
平成18年11月～

農学生命科学研究科
石井正治教授



応用微生物学
昭和62年7月～

農学生命科学研究科
石橋整司教授



森林経済学
平成12年4月～

農学生命科学研究科
稲山正弘教授



木質構造学
平成17年4月～

農学生命科学研究科
芋生憲司教授



農業機械学
平成9年4月～



農学生命科学研究科 高山誠司 教授	経済学研究科 市村英彦 教授	経済学研究科 岡崎哲二 教授	経済学研究科 新宅純二郎 教授	総合文化研究科 加藤恒昭 教授	総合文化研究科 品田悦一 教授	総合文化研究科 竹村文彦 教授	総合文化研究科 田中 純 教授
							
生物有機化学 平成28年10月～	計量経済学 平成17年4月～	日本経済史 昭和61年4月～	経営戦略 平成 8 年4月～	自然言語処理 平成12年10月～	上代日本文学 平成16年4月～	スペイン・ラテンアメリカ学 平成2年4月～	表象文化論 平成5年5月～
総合文化研究科 中西 徹 教授	総合文化研究科 星望守之 教授	総合文化研究科 前田京剛 教授	総合文化研究科 和田 元 教授	総合文化研究科 渡邊雄一郎 教授	薬学系研究科 一條秀憲 教授	薬学系研究科 船津高志 教授	数理科学研究科 新井敏康 教授
							
アジア経済論 平成5年4月～	フランス文学 平成19年4月～	物性物理学実験 昭和60年11月～	植物生理学 平成14年4月～	植物分子生物学 昭和61年4月～※	生化学 平成14年9月～	生物物理学 平成16年3月～	数学基礎論 平成31年4月～
数理科学研究科 山本昌宏 教授	新領域創成科学研究科 伊藤耕三 教授	新領域創成科学研究科 片岡宏誌 教授	情報理工学系研究科 稲葉雅幸 教授	情報理工学系研究科 今井 浩 教授	情報理工学系研究科 坂井修一 教授	情報理工学系研究科 橋田浩一 教授	情報理工学系研究科 藤田政之 教授
							
応用解析 昭和60年4月～	高分子材料学 平成3年6月～	分子認識化学 昭和63年7月～	知能ロボティクス 昭和61年4月～	アルゴリズム 平成2年4月～	情報システム 平成10年4月～	次世代社会システムICT 平成25年7月～	システム制御 令和2年4月～
情報理工学系研究科 松原 仁 教授	情報学環 福島真人 教授	医科学研究所 真鍋俊也 教授	医科学研究所 村上善則 教授	地震研究所 佐竹健治 教授	地震研究所 中井俊一 教授	地震研究所 吉田真吾 教授	東洋文化研究所 大木 康 教授
							
人工知能 令和2年4月～	科学技術社会学 平成10年4月～	神経生理学 平成5年7月～※	分子腫瘍学 平成19年4月～	地震学 平成20年1月～	地球化学 昭和61年6月～	地震学 平成4年3月～	中国文学 昭和61年4月～※
東洋文化研究所 高見澤 磨 教授	社会科学研究所 水町勇一郎 教授	社会科学研究所 BABB, James D 教授	生産技術研究所 加藤千幸 教授	史料編纂所 杉本史子 教授	史料編纂所 田島 公 教授	史料編纂所 鶴田 啓 教授	史料編纂所 山口英男 教授
							
中国法 平成5年10月～※	労働法学 平成2年4月～※	世界政治思想史 平成31年4月～	熱流体システム制御工学 平成11年1月～	近世日本史 昭和61年4月～	日本古代史 平成9年4月～	日本近世史 昭和59年4月～	日本古代史 昭和 60年6月～
宇宙線研究所 梶田隆章 教授	物性研究所 上床美也 教授	大気海洋研究所 高萩 縁 教授	大気海洋研究所 津田 敦 教授	大気海洋研究所 永田 俊 教授	大気海洋研究所 道田 豊 教授	大気海洋研究所 山崎俊嗣 教授	情報基盤センター 柴山悦哉 教授
							
ニュートリノ宇宙物理学 昭和61年4月～	低温高压物性 平成13年4月～	気象学 平成12年7月～	生物海洋学 平成15年4月～	微生物生態学 平成7年9月～※	海洋物理学 平成12年4月～	古地磁気学 平成24年9月～	プログラミング言語 平成20年4月～

東京大学公式アカウントで

Instagram はじめました

写真・動画系ソーシャル・ネットワーキング・サービス

あらためて

Facebookを軽く追い越し、Xに迫る利用者数を誇るSNSといえば、Instagramです。使っていない人でも「インスタ映え」という言葉は知っているはず。ビジュアル重視の若者たちに人気があるSNSとして大学にも活用が求められています。ここでは、苦難の歴史を経て今年度の11月から活用を再開した東大公式アカウントと、その他の東大関係のアカウントについて、概略を紹介します。



二度の凍結を越えて再開

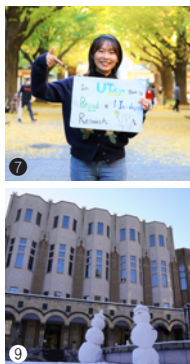
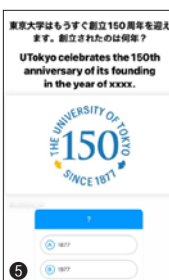
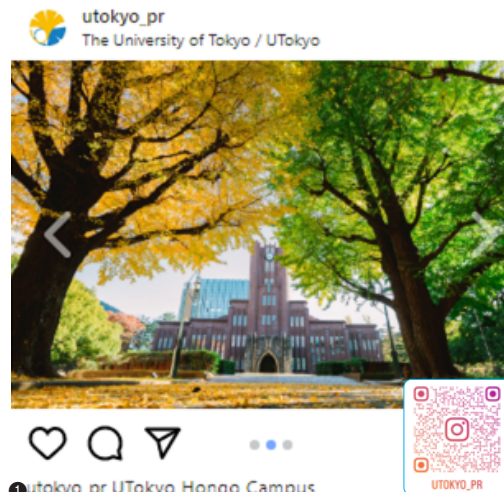
本部広報課では2019年4月にアカウント(utokyo_life)を開設していました。ただ、人的リソースに限られる中、SNSではまずTwitter(現・X)とFacebookに集中せざるを得なかったため、Instagramは休眠状態でした。

転機となったのは、2022年。TwitterとFacebookの運用が軌道に乗り始め、新メンバーの加入もあって5月から検討を始め、8月から本格運用を始めました。キャンパス風景、学生などのインタビュー企画「あなたのUTokyo life」、本誌マスコットのいちょうくんを活用したシーズンズ・グリーティングといった内容を平均して月16本ペースで投稿し続け、フォロワー数は半年で3500を超えました。

しかし、投稿数が97を数え、大台到達が見えてきた2023年1月、突如アカウントが凍結されてしまいます。ガイドラインに違反した覚えは全くないのに、異議を何度申し立てても凍結は解除されず。苦渋の決断として、4月の下旬に新規アカウント(utokyo_official)を開設し、構内風景の写真を投稿しましたが、このアカウントも5月初旬にはなぜか凍結の憂き目に……。そうした経緯にもへこたれず、三度目の正直として新たに開設したのが、現在運用中のアカウント(utokyo_pr)です。

写真と映像の達人が活躍

凍結前の企画をベースにしな



がら、新生アカウントでは全投稿に日本語と英語を併記し、海外ユーザーも意識した運用を行っています。また、様々な職場で学内カメラマンとして活躍してきた島宏幸さんが広報課に

たおかげで、写真のクオリティが格段にパワーアップ。季節ごとのキャンパス風景を撮るのはもちろん、総長が要人と交流する機会や、全学で行われる注目イベント、『学内広報』『淡青』

●東大公式アカウントの投稿より

- ①黄と緑の銀杏が共存する短い時期を逃さなかった、毎日大学に通う職員カメラマンの面目躍如たる一枚。
- ②担当者が海外大学のアカウントを参考に始めた研究Press releaseシリーズ。
- ③「不忍池合戦」で総長が藝大の日比野学長を生研を迎えた際の動画の短縮版は担当者の想定以上のインプレッションを記録。教員紹介シリーズの⑥も含め、リールと呼ばれる短尺動画はおしなべて人気です。
- ④冬至の頃に柚子といちょうくんを共演させた一枚。こんなに手をかけてもらえば本人も浮かばれるというもの！
- ⑤新企画の東大クイズ。今後はフォロワー参加型の企画も検討しています。
- ⑦「あなたのUTokyo life」の大学院生Y.T.Huangさんの回。
- ⑧本郷の定番。
- ⑨雪景色は常に人気。
- ⑩D&Iキャンペーンに連動した"UTokyo Africa Evening"の様子。

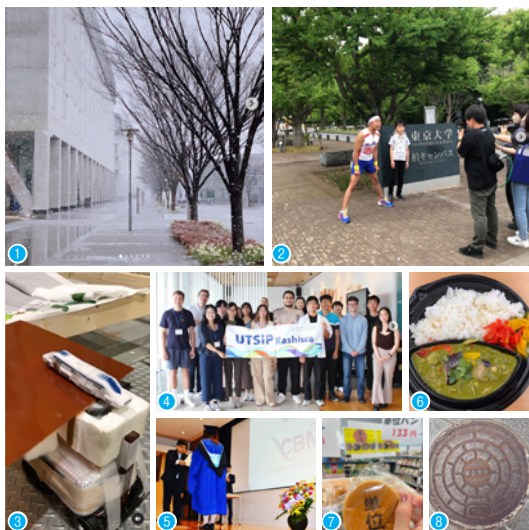
インプレッション数の十傑 (2月21日現在)

創立150周年・ロゴマーク	4507
安田講堂・写真	4261
赤門・写真 ⑧	3875
赤門雪景色・リール	2861
安田講堂雪景色・リール	2675
あなたのUTokyo life・写真 ⑦	2507
安田講堂・リール	2310
安田講堂雪景色・写真	2428
安田講堂屋上から・リール	2421
赤門冬景色・写真	2221

「UTokyo FOCUS」といったサウンドメディアの取材にも立ち会い、大学の様々な活動を切り取って発信しています。加えて、メーラー・ロワンさんが英国BBC仕込みのテクニックでま

●学内の注目アカウントより

@utokyo_gsfs (新領域創成科学研究科)



新領域のみならず柏キャンパスを身近に感じられるよう、自然や建物の風景、食べ物、イベント、研究活動などを織り交ぜ、日英併記のできる限り日々更新中。イメージは「積み上げていく新領域の日々アルバム」だそう。「いいね」数の五傑は、①雪の柏キャンパス、②伴祐樹先生の取材で訪れたサンシャイン池崎さん、③一般公開の大崎研の超伝導コイル（リール）、④夏季インターンシッププログラム、⑤学位記授与。⑥はカフェテリアのエスニックフード、⑦は柏生協に登場した単位パン、⑧は「実験D」と刻された構内マンホール蓋。バラエティ度、高！

@givingtoutokyo (東京大学基金)



基金プロジェクトの背景にある教育・研究、学生の活動などを投稿しています。「ビジュアルが命」「画像そのものが言語」とされるInstagramの特徴に沿った編集がモットー。文字入力の工夫が多いのも特徴的です。過去の人気三傑は、①ホームカミングデイ用にガチャの準備を続ける職員たち、②「震災・戦災のデジタルアーカイブ基金」、③卒業式の学生たち（3つともリール）。④新しい基金プロジェクトの紹介、⑤活動報告のほか、⑥広報誌「淡青」や⑦文書館コラムのPRもあり！今後は150周年をアピールする投稿も積極的にやっていこうです。

●主な学生団体の運用状況

(3月11日現在)

年輩者より若い人に断然なじみが深いのがInstagram。大学の組織よりも学生団体のほうが以前から積極的に活用しています。学生たちの生き生きした写真は大学との距離を縮める有効なアイテム。ストーリー機能を使って、たとえば学生団体の活動をシェアできないか、学生支援課の力を借りて検討を進めています。

組織名	投稿数	フォロワー数	初投稿日
アメリカンフットボール部 tokyo_warriors	1245	4300	2017.3.17
硬式野球部 tokyo_bbc	669	4209	2020.3.1
ラクロス部男子 tokyomlax	322	3757	2018.5.5
駒場祭 komabasai_pr	42	2954	2023.6.29
チアリーダーズKLANZ todaycheer.kranz	342	2462	2020.2.26
ア式蹴球部 today_soccer	1130	2095	2018.5.22
応援部 today_ouen	430	2010	2018.12.28
東大新聞 todayshimbun	65	1364	2021.10.6

めた研究紹介動画の短縮版を紹介する企画（Discover our people）をスタート。さらに、双方向コミュニケーションの一助となるべく、フォロワーが参加できる企画も試みています。

現在、フォロワー数は3000を超え、国内と国外の割合はおおよそ半々。「なぜかインドネシアからの反響が大きく、全フォロワーの約1割を占めています」と現担当の大熊祐子さん。

「がんばってもまた突然凍結されてしまうかも……」とは、2度の凍結に悩まされた孔昕禎さん。一抹の不安も胸に東大公式アカウントとして学生の活動も含めた画像・映像を発信しよう

と試行錯誤を続けています。今のところ投稿依頼は受け付けていませんが、今後は学内の皆様に写真提供などをお願いする機会も増えそう。どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

●学内のInstagramアカウント

(全学サイトのSNS一覧に掲載されたもの / 3月11日現在)

組織名	投稿数	フォロワー数	初投稿日
本部広報課 utokyo_pr	95	3007	2023.5.9
新領域創成科学研究科 utokyo_gsfs	597	942	2021.2.4
東京大学基金 givingtoutokyo	391	558	2020.8.7
総合文化研究科・教養学部 utokyo_komaba	46	247	2023.6.16
東京カレッジ tokyocollege	39	236	2022.3.18
理学系研究科・理学部 utokyo.sci	235	222	2023.2.1
大気海洋研究所 fish_dictionary_auri	14	183	2023.9.21
国際総合力認定制度 utokyo_goglobalgateway	27	156	2023.4.12
UTokyo Global Unit Courses utokyo_guc	56	142	2021.2.12
情報基盤センター utokyo_itc	161	131	2021.6.7
グローバル教育センター utokyo_globe	18	92	2023.11.8
千葉演習林 chibaen_insta	21	70	2023.1.23
MbSC2030総括寄付講座 mbsc2030_utokyo	64	19	2023.9.16

SNSアカウント一覧に未登録のものもちろんたくさんありますが、登録済みのもので最も早い時期に投稿を開始し最多の投稿数を記録しているのは、新領域のアカウントでした。SNSアカウント一覧に登録したい場合は本部広報課Webチームにお問い合わせください（研究室単位の登録はできません）。

●主な他大学の運用状況

(3月11日現在)

組織名	投稿数	フォロワー数	初投稿日
早稲田大学 waseda_university	642	7万	2016.8.2
創価大学 sokauniversity	960	5.6万	2016.8.2
大阪大学 osakauniversity	3693	3.1万	2015.8.1
立命館大学 ritsumeikan_university	689	3.1万	2018.8.7
青山学院大学 aoyamagakuinuniversity	859	2.8万	2017.5.2
関西学院大学 kwanseigakuinuniversity	1042	2.6万	2016.7.21
慶応義塾大学 keio_university	1414	2.3万	2017.3.28
京都大学 kyotouniversity	461	1.8万	2017.7.7
東京藝術大学 tokyo_geidai	225	1万	2019.4.16
北海道大学 hokkaidounivpr	266	6585	2019.10.3

東西の有名私大の名が並ぶ中、旧帝大仲間の阪大が開始時期の早さと投稿数の多さで輝きを放っています。京大や北大、ご近所の藝大とも少々差があり、Instagramでは東大が少し出遅れた感があることは否めませんが、XとFacebookでは私大を含めても上位にいます。



教養教育の現場から

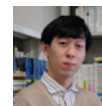
第62回

リベラル・アーツの風

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学の構成員に知っておいてほしい教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

映画で描く科学コミュニケーションの可能性

／科学技術インタープリター養成プログラム2023年度修士生作品



宮坂一輝
総合文化研究科
修士2年

日常のなかの気候変動を描く

—映画を修論のテーマにしたんですね。

「専門は理論物理学で、すごく簡単に言うと重力の研究です。理論物理だけではなく、2つの軸を持ちたいと思いから映画もつくって来ました。副専攻での修了研究で取り上げた映画『温帯の君へ』の脚本は、2年くらいかけて執筆していたものです。気候変動という言葉を使わずに気候変動を表現した映画をつくらうと取り組んできたのですが、納得がいかず書いては修正するという作業を繰り返していました。方向性を変えるしかないと思っていたタイミングで副専攻のテーマを決めることになり、脚本を全面的に書き直すことにしました」

「この映画では恋愛を通じて気候変動問題を描いています。大学生カップルの一方が気候変動に目覚め、認識や考え方の違いで衝突し、その後互いの認識を理解する。科学コミュニケーションでいう「欠如モデル」的な、自文化中心主義を乗り越えるまでの物語です。気候変動に関する現状に目を向けると、積極的に行動する人を揶揄したり、行動しない人を

攻撃したりという対立が見られます。そこで争っているのは生産性がありません。結局どこかで解決しなければいけないタイミングがくるわけで、そこに向かって我々はどうすべきか考えるべきじゃないかということが出発点です」

—多くの層にリーチするための工夫は？

「私たちが普段しているような会話や人間関係の日常を通して気候変動を描く、というアプローチをとりました。気候変動という科学的なテーマを描こうと思うと、気候変動に関する情報をセリフの中に入れてしまい、押しつけがましくなってしまうりします。登場人物を私たちの代弁者として描くのではなく、受け手側に近い感覚をもつ登場人物を置いて、その登場人物同士のコミュニケーションのなかで気候変動を描くということを意識しました」

「気候変動に関心あるないに関わらず楽しめる映画になっていると思うので、多くの人に見ていただきたいです」

作品は劇場公開する予定

—映画を通して伝えたいことは？

「見た後にポジティブな気持ちになっ

てもらえたらと思います。そしてそこに、『自分たちとつながっていることなので』といった何かしら引っかかりがあつてほしい。映画では気候変動を描いていますが、恋愛でも、友人関係でも、どこかで認識の違いというものには必ずあります。そこをコミュニケーションを通して乗り越えるということを繰り返していけば、やがては社会的な動きにつながっていくのではないかと考えています」

—今後について教えてください。

「この副専攻では多様なバックグラウンドを持つ人たちと出会い、議論を重ね、自分の中の知見を広げることができました。科学コミュニケーションは必ずしも科学だけではなく、政治や社会問題のように『難しい』とか『理解できない』と思われている物事一般に通じる考え方です。これからの時代に必要な科学の視点だと思います。4月に一般企業に就職しますが、社会に出る直前にそれを学べたことは自分の中で大きいです。映画は今後も撮り続けていきたいです。『温帯の君へ』は今年4月に完成する予定です。少し先になるかと思いますが、劇場公開もする予定なので、ぜひ見に来てください」



①映画『温帯の君へ』。70～80分の映画になる予定です。クラウドファンディングで製作支援を呼びかけたところ、73名から約50万円の支援が集まりました。②③映画のメイキング④撮影現場での宮坂さん⑤指導教員の内田麻理香先生（右）、定松淳先生（左）と。



いちょうの 部屋

学内マスコット放談



今回のゲスト

ぴあもぐの巻

ピアサポーター・マスコットキャラクター

本名は「ぴあさぼのもぐら」。支え合いのキャンパスを目指す学生たちをゆるっと支えて3年半。趣味は捨った種を育てること。50cmもの地上部を擁するという巨大生物。

- いちょう** 2020年11月生まれだってね。もぐらなの？
- ぴあもぐ** …う…ん…も…ぐ…ら…だ…よ…。
- 代理人** すいません、あまりしゃべれない子なので代弁します。ピアサポーターのマスコットが欲しいということになって室内で公募し、7候補から投票で選ばれました。次点の野菜系キャラとは1票差でした。
- い** こう見えて、そんな接戦を勝ち抜いていたとは！掌の♥印と、頭に生えた草がチャームポイントだね。
- 代** じょうろで種に水をかけて育てる室のロゴを見ているうちに芽が出ました。喜ぶときれいな花が咲くという噂も聞きますが、まだ見たことはありません。
- い** そういえば、前にうさぎのマスコットもいたよね。9年前の本誌（1472号）で見たよ。……解雇された？
- 代** ぴあうさぎたちは、「マスコット（仮）」でした。卯年だった2023年の年賀状には登場していましたよ。
- い** 先輩を差し置いての就任とは、見た目似合わずやり手だね。いつもどんな活動をしているの？
- 代** 各キャンパスにひょっこり現れて、学生の生活を見守ったり、学生の食事の様子を物欲しそうに見たり。イベントのポスターやルーム内の書類には必ず登場し、葉やブックカバーや付箋などの配布グッズもあります。UTokyo Slackのリアクションにもなっているんですよ。
- い** 手製の人形もあって羨ましいなあ。第二形態？
- 代** そもそもは、「よもやま語らいゼミ」というフリートークの場で話者が誰かを示すためにピアサポーター有志が作ったものです。ワークショップで何か作りたい場合の題材としても重宝されています（↓写真）。
- い** ふーん。いろいろ愛されているみたいで、いいですね（妬）。
- 代** 去年は札幌に行って全国の大学のピアサポーターが集う研修会「ぴあのわ」に参加しました。会場にいた東工大のマスコット「ピアサポーターマン」に話しかけようとして、諦めたようですが。
- い** ご活躍だね。次は着ぐるみも作っちゃったり？
- 代** アピール力を高めるためにぜひ欲しいですね。ただ、地面から下の部分は誰も見たことがなく、全身の着ぐるみとなると仕上げるのが難しいかもしれません。
- い** 今年は辰年で、もぐらは漢字で書けば土竜。ぴあもぐくんのますますの活躍を嫉妬含みで祈っているよ。
- ぴ** …の…ん…び…り…や…る…よ…。



<https://ut-psr.net>

#WeChange



Now

第6回

男女共同参画室通信

30% Clubの9大学が声明を発表



コミットメントはこちらから↓



2024年2月、30% Club Japan 大学グループに加入している9大学のトップ（総長／学長／塾長）が、「多様性のある大学運営」に向けたコミットメントを発表しました。

30% Clubとは、企業の意思決定機関における健全なジェンダー・バランスを実現することを目指す企業や組織のトップによる集まりで、2010年に英国で創設されました。2019年に30% Club Japanが立ち上がり、2020年に大学グループが発足しました。2021年からは本学の藤井輝夫総長がチェア、男女共同参画室が事務局を務めています。

今回発表したコミットメントは、大学グループに参加しているトップ1人1人が「多様性のある大学運営」にむけた具体的な目標を言語化することによって、実現への道筋を作ることを目指しています。

藤井総長は、「最後に総長から一言！」のコーナーで、次のようなメッセージを出しています。

「性別、国籍、障害の有無など、さまざまなバックグラウンドを持つ人たちが、東京大学で、自分らしく、そして安心して活動し、実力を発揮できるようにするのは、総長としての私の役目だと感じています。東京大学は、対話を通した創造、多様性と包摂性を大切に、世界の誰もが来たくる大学を創り上げていきます。

ジェンダー・バランスについて、本学は現在10名の理事のうち4名が女性であるものの、学部長・研究科長や教授、そして学生のそれぞれにおいて女性の割合は極めて少なく、非常に特殊な状況になっています。世界に比べても日本のジェンダーパリティ達成は不十分ですので、東京大学としてもより多くの女性の皆さんに活躍いただけるよう、引き続きあらゆる手段を尽くしてまいります」

●30% Club Japan 9大学のトップ

東京大学総長（チェア）	藤井輝夫
大阪大学総長	西尾章治郎
お茶の水女子大学学長	佐々木泰子
慶應義塾塾長	伊藤公平
昭和女子大学総長	坂東眞理子
上智大学学長	曄道佳明
津田塾大学学長	高橋裕子
同志社大学学長	植木朝子
新潟大学学長	牛木辰男

（チェアを除き、大学名・五十音順）

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/>

ワタシのオシゴト 第214回

RELAY COLUMN

本部経営戦略課
経営戦略チーム 府川智行

過去も現在も未来も考えるオシゴト



完成したの150周年応援パネルをお借りして

2020年4月に産学協創部の立ち上げメンバーとして労働保険料の計算から床下の配線作業まで「何でも屋」として過ごした3年間を経て昨年4月に現在の部署に異動となりました。現部署では幅広い様々な企画調整業務をしていて、違う形ですが引き続き「何でも屋」をしている気がしています。

チームでは国際卓越研究大学への申請、College of Design (仮称) 構想や国立大学法人法改正対応など幅広いトピックを扱います。私が主に担当しているのは未来社会協創推進本部 (4月からUTokyo Compass 推進会議に改組予定)、150周年記念事業です。優秀なチームのみなさんに助けて頂きながら仕事を進めています。

2027年に東京大学は創立150周年を迎えます。ありとあらゆる形で「象牙の塔」と「生ける社会」の結び目を形づくろうとしてきた歴史をかえりみて、現在・未来へ向けて「響存」する大学の姿をのぞみつつ、学外のみなさんとともに祝う機会を準備していければと考えています。



ワタシの「推し」ゴトです

得意ワザ：何分でも話し続けられる (話が長いだけ...)

自分の性格：リラックスした生活を目指して修行中
次回執筆者のご指名：矢崎恵一さん

次回執筆者との関係：産学協創部立ち上げメンバー
次回執筆者の紹介：温厚篤実でよく気が回る仕事人

専門知と地域をつなぐ架け橋に

FSレポート!

第30回

農学部4年 石川龍太

二つの町の未来に向けて



地域を盛り上げる醤油蔵での醤油作り体験

私たちのチームでは、鹿児島県の大隅半島に位置する大崎町と東串良町という二つの町と連携し、「地域

と共に社会課題に挑む関係人口の創出」をテーマに、両町への施策提案を目標に1年間活動してきました。

計3回の現地活動とオンラインでの聴き取りを経て、農業地帯ならではの「食の魅力」や、ふるさと納税による特産品の全国展開といった二つの町に共通する特長もあれば、アウトドア、狩猟、SDGs政策など大崎町と東串良町のそれぞれが重視する分野もあることが分かりました。今回の施策提案では、役場の方から学生ならではの新しいアイデアを求められていることもあり、チーム内の5人がそれぞれ注目した点に関して一つずつ施策をつくりあげています。5人の中には、農業やアウトドアなどの特定の分野を活かした関係人口創出を提案するメンバーのほか、「地域おこし協力隊」など町を取り巻く制度面から地域をより良くする施策を考えているメンバーもいて、幅の広い提案になると考えています。

これまでの活動に際しては、役場の方や地域の方々にもいつも温かく歓迎していただき、大変感謝しています。牛肉や鰻など地元の魅力溢れる食事でもてなしていただいたことや、1.5万人以上が来場したKagoshima Outside Festivalのお手伝い、大崎町の先進的なSDGs施策に触れたことなど、印象に残るものばかりでした。現地で昼間の活動のみならず夜の食事会でもたくさんの方々とお話してきたことで、地域により深く入り込み、実のある施策提案につなげることができたと感じています。自分自身、この1年間を経て大崎町と東串良町に愛着が湧き、活動終了後も何度も行きたいと思う場所になりました。多くの魅力をもった二つの町の未来に向けて、今回提案する施策が実際に実現することを目指し、3月の現地発表会に向けた準備をしっかりと進めていきたいです。

現地活動中は町の移住体験住宅に宿泊しました



※メンバーはほかに木戸友仁 (理一2年)、水谷玲太 (理一2年)、佐藤光駿 (人文社会系研究科修士1年)、岡本稜大 (公共政策専門職2年)

インタープリターズ・第199回 バイブル

総合文化研究科客員教授
科学技術コミュニケーション部門 小松美彦

小津映画から顧みる

世界の巨匠、小津安二郎監督の名作のひとつに《彼岸花》(1958年)がある。結婚をめぐる父娘の確執と情愛を主軸にしたものである(小津初のカラー作品)。

父(佐分利信)は長女節子(有馬稲子)の嫁ぎ先をなかば決めており、母(田中絹代)もその意に従っている。そんなある日、父の前に見知らぬ青年(佐田啓二)が現れ、節子との結婚の許しを請うたのであった。かくて、父娘の関係は一旦に険悪になる。「私、自分で自分の幸せを探しちゃいけないでしょうか」と娘。父は父で、「おまえがみすみす不幸になるの、黙って見ちゃいけないんだ」と寂声を返す。

最終的に父は娘の自由な結婚を割り切れないながらも受け容れるのだが、映画の前半には全体の伏線をなし、社会的にも物議をかもしたシーンがある。家族旅行で訪れた芦ノ湖の畔で、田中絹代が佐分利信に“防空壕の幸せ”を語る場面である。

「あたしねえ、時々そう思うんだけど、戦争中敵の飛行機が来ると、よくみんなで急いで防空壕に駆け込んだわね。節子はまだ小学校に入ったばかりだし、久子はやっと歩けるくらいで、親子4人真っ暗な中で死ねばこのまま一緒だと思ったことあったじゃないの。戦争は嫌だったけど、時々あの時のことがふと懐かしくなることあるの。[...] あんなに親子4人がひとつになれたことなかったもの」。

さて、科学コミュニケーションにあって、通常は「伝達する」を意味する英語の“communicate”の原義は、「分かち合う」「共にする」である。しかも、「伝達」の語意に派生した後も、その対象は情報や思想から聖体(拝領)へと広がっている。つまり、聖体(パンと葡萄酒)が伝達されることで、人はイエスと霊肉を分かち合い、共にし、そしてイエスとひとつになってきたのである。

しかし、《彼岸花》が描いたように、「共に」と「自由」は根本的に相容れないのだろうか。幸せな「共に」は、「自由」を奪われた防空壕の逆説の中にしか存在しないのだろうか。小津との接点など皆無に思えるマルクスは、実は小津と同様のことを述べている。

「自由という人権は、人間と人間との結合にもとづくものではなく、むしろ人間と人間との分離にもとづいている。それは、このような分離の権利であり、局限された個人の権利、自己に局限された個人の権利である」(「ユダヤ人問題に寄せて」)。

では、あらためて顧みるなら、科学コミュニケーションは、コミュニケーションにまつわる以上の問題をいかに考え、^{いすこ}何処に向かおうとしているのであろうか。

ききんの き

寄付でつくる東大の未来

第53回

社会連携本部渉外部
シニア・ディレクター

西 大治郎

GNBでファンドレイジングを議論

東京大学には、グローバル・ナビゲーション・ボード(UTokyo Global Navigation Board: GNB)という、本学がUTokyo Compassを指針としてグローバルに実装・実働していく上での助言、アイデア、提案等について議論するための国際的なエキスパートにより構成された総長の諮問会議が設置されています。

2月14日に、伊藤国際学術研究センターにてGNB会議が開催され、私はファンドレイジング担当として陪席しました。対面開催は藤井輝夫総長下では初、約4年ぶりの開催です。

テーマは「海外ファンドレイジング」。日本、アジア、米国、欧州からの7名のボードメンバーを招き、相原博昭理事・菅野暁CFO・福島毅CIOによる本学の財務戦略およびエンダウメントの拡充戦略についての説明、泊幸秀教授・竹内昌治教授の両総長補佐による、東大の国内外におけるファンドレイジングの現状や海外大学との比較、津田敦理事・三島龍渉渉外部門長による、東大の渉外活動について、染谷隆夫副学長による東大のスタートアップ戦略についての各プレゼンテーションに加え、各メンバーを交えた活発な意見交換が行われました。

参考になる話、勉強になる内容ばかりで全てはここには書ききれませんが、中でも最も印象に残っているのは、どのボードメンバーの口からも“アラムナイ”“Alumni”“卒業生”という言葉が出てきたこと。国内外多種多様なステークホルダーに向けて東大への支援を呼び掛けるのはとても大切なことだが同時に、欧米のどの大学でも最も強力な支援者は卒業生であり、彼ら彼女らとのネットワーキングを進めることが極めて大切だと。その他には、“東京大学が持つgemは? jewelは?それを明確に意識して訴えていくべきだ”という点が強調されていたのも印象的でした*。

どちらも我々が日々心掛けていることではあるものの、まだまだ道半ばです。それらの重要性を改めて確認するとともに更に徹底しつつ、学内の皆様にも協力いただきながら150周年に向けファンドレイジングに一層邁進していくべく、気が引き締まる思いで会場を後にしました。



GNBについてはこちらから↓



東京大学基金事務局(本部渉外課)

*gemはjewelに加工する前の原石(gemstone)の意

トピックス 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles) に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル (一部省略している場合があります)
2月9日	本部広報課	令和5年度 退職教員の紹介
2月13日	産学協創推進本部	Afri Converse開催報告
2月13日	男女共同参画室	30% Club、9大学が「多様性ある大学運営」コミットメント発表
2月16日	情報基盤センター	次期LMS UTOLのロゴマークを決定
2月20日	本部経営戦略課	College of Design (仮称) 構想に関する報道について
2月22日	本部渉外課	「東洋文化研究所基金」寄付募集を開始
2月26日	情報基盤センター	情報基盤センターの研究チーム、高速データ転送コンペで受賞
2月27日	生産技術研究所	第6回日本オープンイノベーション大賞の農林水産大臣賞を受賞
2月27日	総合文化研究科・教養学部	総合文化研究科長・教養学部長が東京商工会議所目黒支部で講演
2月29日	広報室	システムチェンジを目指して—— COP28とこれから
3月5日	本部渉外課	東京大学150周年記念事業応援型自販機の設置スタート
3月6日	本部人事企画課	「令和5年度東京大学卓越研究員 (公募型)」5名を決定
3月8日	広報室	ジェンダー不平等の解消に向けて
3月10日	本部渉外課	ご入学記念キャンペーン2024 東京大学基金へのご寄付でオリジナルグッズ贈呈!
3月10日	本部入試課	令和6年度前期日程試験及び外国学校卒業学生特別選考合格者発表
3月10日	本部入試課	2024年度外国学校卒業学生特別選考合格者の皆さんへ (手続のご案内)
3月11日	総合文化研究科・教養学部	「東大に女子を増やそうプロジェクト」卒業生インタビュー動画 [1] を公開
3月12日	本部広報課	広報誌『淡青』48号 (トイレ号) を発行



CLOSE UP 対話型イベント「AFRI CONVERSE」を開催

(産学協創推進本部)

12月18日、本学HASEKO-KUMA HALLにて、AFRI CONVERSEと題したイベントを、国連開発計画 (UNDP)、国際協力機構 (JICA) と共催しました。テーマは「アフリカのイノベーションの台頭：持続可能な開発のための起業ソリューション」。外務省アフリカ部アフリカ第一課長とJICA理事長特別補佐の挨拶の後、タンザニアで太陽光発電によるランタンの貸し出し事業を行うWASSHA株式会社の秋田智司氏、セネガルと日本の産業界の連携を促進するKOBARAX株式会社のマリム・ジョセフィン氏が講演しました。

その後、UNDPマラウイ事務所のチンツィア・テッチ氏、JICA経済開発部の伊月温子氏が取り組みを説明し、本学の染谷隆夫執行役・副学長がスタートアップ支援の試みやアフリカ支援に関するイニシアティブを説明しました。続いて、READYFOR株式会社の富澤由佳氏のモデレートにより、会場参加者との質疑応答を実施。アフリカでの起業に関心のある若者の支援、アフリカからの留学生と日本人学生との交流促進、また援助機関やアカデミアが活動を奨励する機会を作ることが重要だと確認されました。



パネルディスカッションの様子



CLOSE UP 広報誌『淡青』48号を発行 (広報室)

表紙は駒場の21 KOMCEEです

今号の特集は「トイレと東大」です。2015年に国連総会で採択されて以来、世界中の企業や組織や個人が意識するようになっているSDGs。17の目標のうちの6番目に記されたのは、「安全な水とトイレを世界中に」でした。もちろん、国連が目標に掲げるずっと前から、排泄は人類への貢献を目指す大学にとって欠かせないテーマです。子どもが大好きな大小便の世界

に大学が真剣に取り組んだらどうなるのか。誰にとっても他人事ではない排泄にまつわる東大の研究や取り組みを集めて紹介します。

「UTokyo研究室発グッズ集」「東大の宝」「シリーズ 東大基金」という新連載、4月からアップデートされる大学のロゴマークの紹介、そして卒業生メディア「東京大学校友会ニュース」もあわせてご一読を!



令和6年度 学内広報 配布スケジュール	1581号 4月30日	1582号 5月31日	1583号 6月28日	1584号 7月31日	1585号 8月30日	1586号 9月30日
	1587号 10月31日	1588号 11月29日	1589号 12月25日	1590号 1月31日	1591号 2月28日	1592号 3月31日



CLOSE UP 「東大に女子を増やそうプロジェクト」を開始 (総合文化研究科・教養学部)



教養学部公式YouTubeチャンネル
https://www.youtube.com/@utokyo_komaba

東京大学には、約7千人の女子学生と約4千9百人の女性教職員が所属しています。全構成員の割合からするとまだまだ少数ですが、一人ひとりが、それぞれの夢や目標に向かって、さまざまな活動に励んでいます。本学では、女子学生や女性教職員を支援する改革を進めています。その取り組みの一つとして、本学に入学した全ての学生が最初に学ぶ教養学部では、高大接続に重点を置き、「東大に女子を増やそうプロジェクト」を始めました。本プロジェクトは、社会で活躍する女性卒業生のインタビューを通して、東京大学での学びと社会での活躍の接続を具体的に探り発信することで、本学を目指す女子高校生を応援したり、現在本学に在学中の女子在学生の意欲を高めたりすることを目的としています。

第1回は、現役東大生の2名が卒業生で弁護士の江藤真理子さん（1994年法学部卒）にインタビューしました。その様子と、江藤さんから未来を担う皆さんへの「よく遊び、よく学べ」のメッセージは、教養学部公式YouTubeチャンネルからご覧頂けます。



CLOSE UP 新学習管理システム「UTOL」のロゴを公募で決定 (情報基盤センター)



「まさか自分のデザインが選ばれると思っていたなかったので、嬉しい限りです。ありがとうございます」とは公募の受賞者（匿名）のコメント。「O」の円はUTOLを通じて教員や学生が繋がることを表し、その輪が広がることを回りの円で示しています。

情報基盤センターでは、3月に新しい学習管理システム（LMS）の運用を開始しました。この新しいLMSの名称をITC-LMSからUTOL (UTokyo LMS) へと変更することに伴い、ロゴマークの学内公募を行いました。200件を超える応募があり、新学習管理システムロゴマークデザイン選考委員会における厳正な審査のうえ、デザインを決定しました。このロゴマークは今後、UTOLのウェブサイト、マニュアル、パンフレット、さらにUTOLを紹介する学内ウェブサイト等で活用

されます。選考委員長は「選ばれたロゴは、2023年度まで稼働してきたITC-LMSのロゴのフォントの面影を残しながら、新しいシステムへの発展性が象徴的に表現されています。学習教材の配信やレポートの管理など、日常的に触れることの多いプラットフォームのロゴとしてシンプルな表現であることも高く評価されました。新しいロゴが、UTOLという名称の浸透と親しみを深めるきっかけとなることを期待しています」とコメントしています。



CLOSE UP 東京大学150周年記念事業応援型自販機の設置を開始 (本部渉外課)

東京大学は、ダイドードリンク株式会社と覚書を締結して、創立150周年記念事業応援型自動販売機の設置を開始し、3月4日に本郷キャンパスのHASEKO-KUMA HALLにて記者発表を行いました。150周年記念事業ロゴマークとメッセージを掲載した本自動販売機は、本郷キャンパスがある文京区から設置を開始しています(→右下表)。自動販売機の売上の一部は本学に寄付され、東京大学の基盤基金“UTokyo

NEXT150”を通じて、教育・研究活動やGX活動の推進に活用されます。この取り組みは、本記念事業の周知と東京大学の次の150年を支える応援の輪を広げる機運の醸成に大きく寄与するものです。記者発表では、津田敦 理事・副学長からダイドードリンク株式会社の中島孝徳代表取締役社長へこの度の賛同と協力への感謝の言葉が伝えられ、応援型自動販売機の前で記念撮影を行いました。



記者発表に参加した津田理事(左)と中島社長

応援型自販機設置場所(3月5日時点)

永島医科器械(株) 東京支社	文京区本郷 5-3-4
永島医科器械(株) 物流Cセンター	文京区本郷 4-1-9
杏友医療機器協同組合	文京区本郷 3-39-14
株式会社旅館 更新館	文京区向丘 2-1-5
武内義肢製作所	文京区本郷 3-39-5
芙蓉堂薬局	文京区本郷 4-2-1



芙蓉堂薬局(本郷三丁目交差点の交番の裏)に設置された自販機。通勤途中でダイドードリンクをどうぞ!



3,300円 (720ml) ※税込

UTOKYO オーク樽の芳醇な香りを…清酒「尾仲」

ワイン酵母からできた日本酒を飲んだことはありますか? 「尾仲」は野生ワイン酵母から作られ、ワインオーク樽で一年間熟成させた純米吟醸です。開けた瞬間に漂うオーク樽の芳醇な香り。口に含むとフルー

ティで爽やかな酸味がキレを感じさせつつ、バニラ香がすっと残る新感覚の日本酒です。花見の季節、桜とオーク樽の芳醇な香りを肴に一杯いかがでしょうか。(福)

UTCCからのお知らせ
utcc.u-tokyo.ac.jp





自律分散型組織(DAO)と大学

先日、DAO UTokyoという国際カンファレンスが開催された。DAOとは「Decentralized Autonomous Organizations」の略で、ブロックチェーン技術を活用して分散的に業務処理を行う組織を意味する。ハーバード大学で開催されたDAO Harvardに続く国際イベントで、アジア諸国や欧米諸国からも参加があり、DAOを巡る最新動向や政策的課題など多岐に渡る論点について議論が交わされた。

DAOは特定の管理者が決定権限を持つ階層型組織に対して、自律的・分散的に業務を実行し、投票などの手続きで意思決定を行うことがその特徴である。ビットコイン誕生時から存在するコンセプトであるが、仮想通貨の運用管理に加え、最近では分散型金融、メタバース、自治体に関わる地域活性化など、多様な場面で活用されている。

DAOの評価や成功要因に関する研究は途上であるものの、比較的順調に運営されているプロジェクトには以下のような特徴があるようだ。第一に、明確なプロトコル(手順)によって業務や意思決定方法が定義されているため、不確実性が下がり、参加者が安心し

て参加することができる。第二に、有効なインセンティブが設定されており、参加者は貢献度に応じた報酬を得ることができる。第三に、透明性が担保されていて、資源の配布や流通などの運用状況を誰もが確認することができる。

ところで、大学も一般企業と比較すると、自律分散性を持つ組織であると言えるだろう。社会との関係において大学の自律性には長い議論の歴史があり、また各学部・教員にも組織全体との関係において自律性をみることができる。自律分散型組織を観察しつつ、研究プロジェクトや大学の運営方法を考えるのも面白い思考実験である。

また、ブロックチェーン技術は「信頼のインターネット」とも呼ばれる。多様なステークホルダーが集まりフラットに議論できるのも、「大学」という場が信頼のプラットフォームとして機能しているからだということを実感する機会でもあった。

高木聡一郎
(情報学環)



DAO UTokyo
2024年2月6~7日
情報学環・福武ホール

